



件名: ■ 請負協力会社作業員の死亡災害について(10/30発生)

請負協力会社作業員の死亡災害について (10/30 発生)

<取付けた引入金物が外れ飛び胸部に当たり死亡>

【発生日時】

2024年10月30日(水) 22:50

【概要】

・被災者は、班長以下7名でケーブル張替工事に伴う新設ケーブルの引入作業を開始した。

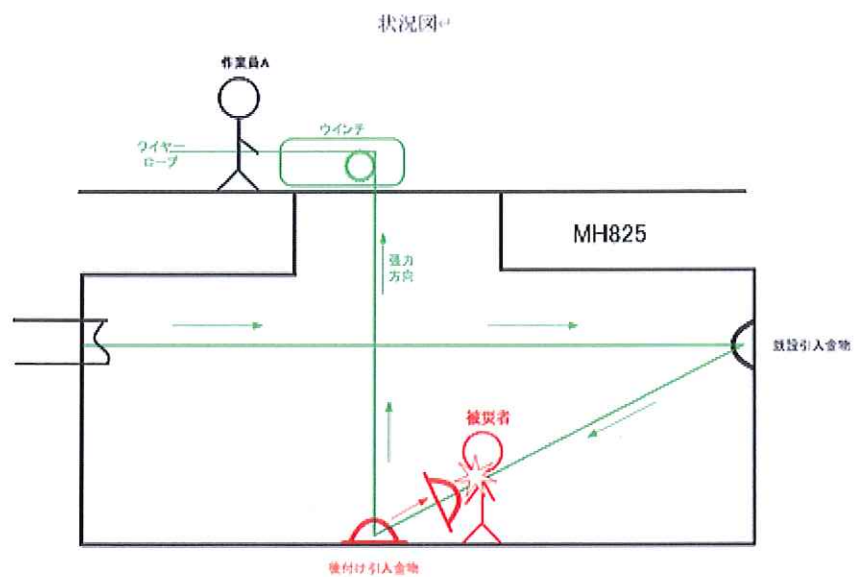
・被災者はマンホール(以下MH) 825内でケーブル引入状況を監視していたところ、

引入用のウインチワイヤーの張力により、今回の工事用にMH床面に取付けた引入金物が外れ飛び、胸部に当たり受傷した。

・直ちに救急車を手配して市内の病院に運んだが、0時45分に死亡が確認された。

作業内容: 33kVスポットネットワーク不良ケーブル張替(ケーブル新設)

負傷内容： 程度：死亡 部位：胸部打撲



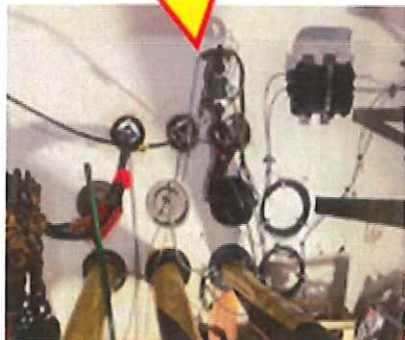


被災者に当たったものと
同型の後付引入金物



床面に、後付引入金物が
固定されていた場所

壁面:既設引入金物



後付引入金物の耐荷重や金車の使用状態など、具体的な発災時の状況はわかっておりません。

なお、2021年に弊社管内でも同種の作業において、ワイヤーが破断し作業者に接触するという災害が発生していますので、参考に共有させていただきます。

【発生日時】

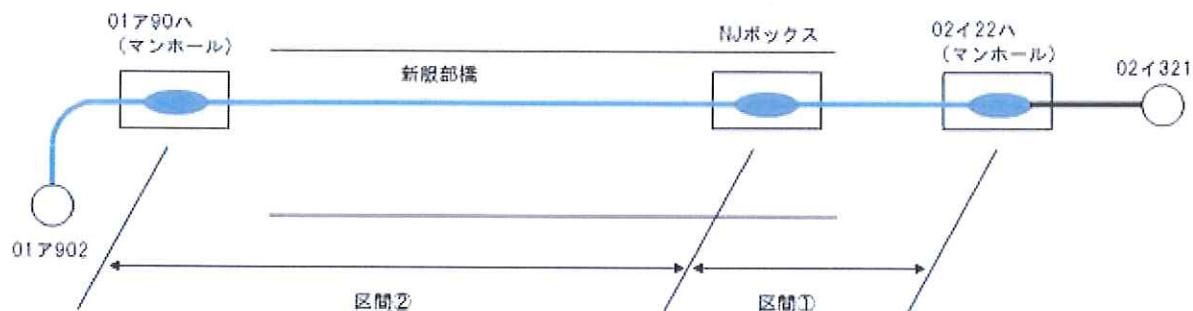
2021年8月23日（月）12：00頃

【概要】

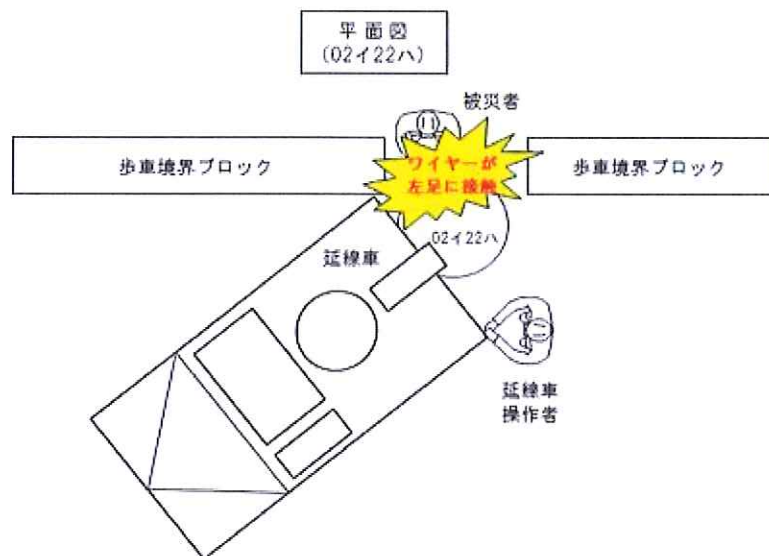
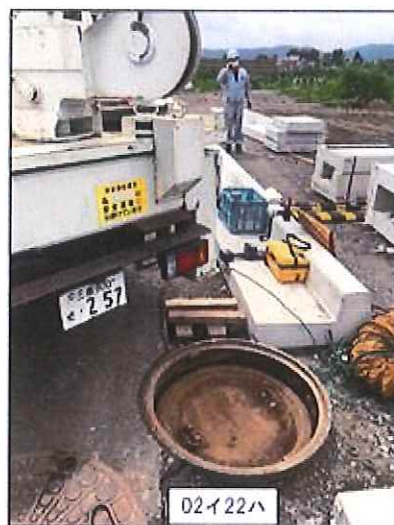
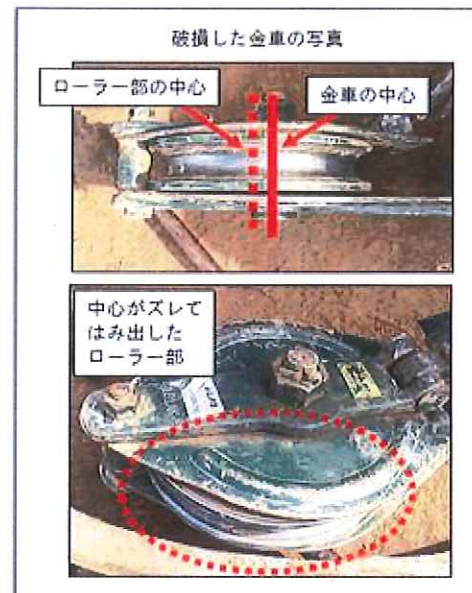
- 1 8時30分 本人および同僚3名は、橋建て替えに伴うケーブル撤去工事の現場に到着し、TBM-KYを実施した。
- 2 9時00分 マンホールに延線車を設置し、ケーブル切断および撤去作業を開始した。
- 3 中間のジョイントボックス内に直線接続があったため、始めに区間①のケーブル撤去を開始し、作業を完了した。
- 4 12時00分頃 区間②のケーブルを撤去するためマンホール側に20mほど引っ張った時、延線車のワイヤーがマンホール内に取り付けた金車付近で破断し、マンホールの外へ跳ね上がった。
- 5 その際、跳ね上がったワイヤーがマンホール上にいた本人の左足に当たり負傷した。
- 6 12時05分 現場責任者は救急車の手配を指示するとともに、災害の発生を上長へ連絡した。
- 7 12時36分 救急車が到着し、市内の病院に搬送された。

負傷内容： 程度：不休 部位：左足膝、左足脛脛、左足薬指打撲（治療日数1日）

概要図



ケーブル撤去の順番
※区間①を撤去後、区間②を撤去



上記災害は、「延線車の張力計に不具合があり作動しなかった（通常であれば 1.5～2.0t の張力がかかった場合にリミッターが作動する）」、「金車に使用荷重（2.5t）以上の張力がかかり正常に機能しなかった」ことにより発生しています。幸い不慮災害であったものの、北海道の災害と同様の結果になっていてもおかしくない事象でした。

電線の引き抜きや重量物のつり込み、倒木の牽引など、重機や金車を組み合わせた作業機会は直営請負ともにあると思います。

機動化された作業は便利である一方、各工具の耐荷重が当該作業の荷重に耐え得るシステムを構築しなければならず、ひとたびシステムが破綻すると、大きな反動を伴って重篤な災害に繋がるおそれがあります。

弊社直営では、伐採作業における直営死亡災害を受けて、かかり木処理に関する全社大の伐採教育を開催しており、その中で「数字と物理法則を用いてシステム構築すること」をカリキュラムの 1 つとしています。

（樹木重量や牽引角度などから、ワイヤーや金車、スリングにかかる最大荷重を計算したうえで、当該工具が耐え得るか、破断前に安全装置が機能するか等を確認する）

社外講師の方からは、「『とりあえずやってみる、何とかなるだろう』という状態で作業を進めてはいけない」、「気合や根性は問題を解決する技術ではない」、「撤退（作業中断）する勇気を持つ」ことを繰り返してご指導いただいています。

想定内で物事を進められるよう、作業着手前から工夫するとともに、対象の程度がわからないときは最大の準備をする（準備不足のまま実行（突撃）しない）ことが重要です。

このような重篤災害を防ぐためにも、最悪が生じた場合に備えて速やかに作業が停止できるよう、安全装置の作動値や監視位置、合図を作業着手前に定めることを本事象の共有に併せて改めて注意喚起いただきますようお願いいたします。